在来工法から一部金物工法への変更方法

サンプルデータの「STRDESIGN サンプル V14 (3 階・在来・布基礎)」を例に、変更方法を示します。

物件垂号	物件名	ファイルタ	13-32-32	重新日
999951-04-0023-2	N/THE	FIPOS)/(FIP修正)	V14-02-002	2010/03/09
999951-04-0023-2		FIPOSV	V14-02-002	2010/03/09
	STRDESIGNサンブル(構造自動前)	STRDESIGNサンブルV14(構造自動前)	V14-03-001	2010/08/31
	STRDESIGNサンブル(構造自動)()	STRDESIGNサンブルV14(構造自動)(を)	V14-03-001	2010/11/01
	STRDESIGNサンブル(混構造)	STRDESIGNサンプルV14(混構造)	V14-03-001	2010/08/31
	STRDESIGNサンブル(2階・在来・布基礎)	STRDESIGNサンプルV14(2階・在来・布基礎)	V14-03-001	2010/08/31
	STRDESIGNサンブル(3階・在来・布基礎)	STRDESIGNサンプルV14(3階・在来・布基礎)	V14-03-001	2010/08/31
	STRDESIGNサンブル(3階・金物・ベた基礎)	STRDESIGNサンプルV14(3階・金物・ベた基礎)	V14-03-001	2010/08/31
	STRDESIGNサンブル(2階・在来・布基礎)	サンプル√14(2階・在来・布基礎→混構造)	V14-01-002	2009/12/08
		モデルプラン	V14-02-002	2010/03/04
		モデルプラン1(2)	V14-02-002	2010/03/09
		モデルプラン1(3)	V14-02-002	2010/03/12
		エデルゴーンオ (2)	1/14-02-002	2010/02/08

1) サンプルデータを開き、ファイルメニューの"追加インポート"を選択します。
 金物工法(プレセッター)のファイルを開きます。

🕻 STRDESIGNサンブルV14(3階・在来・布基	曜).mld	- Modeler				
ファイル(E) 編集(E) 入力制御仰 表示(V) ツール(I) ^#7°(<u>H</u>)				
新規作成(N) 開(@) 再読み込み(L)	Ctrl+N Ctrl+O	2- I7-				
閉じる(©) 上書き保存(<u>©</u>) 名前を付けて保存(<u>A</u>)	Ctrl+S	を 「深さ X 直 加 五 効				
テンフ[®]レートとして(保存(I) 部材テンフ [®] レートテ [®] ー対保存(<u>B</u>)		A La deal A	ファイルを開く			
インホ ^e ート @ エクスホ ^e ート (<u>E</u>)		渡 (80度 左 180度 反	ファイルの場所①:	🔁 Template	▼ ← €	r 🗐 🕈
追加インホ°ート(D)			ayer		 ・ ・	/レートV14.csv
ED刷(<u>P</u>) フリンタの設定(R)	Ctrl+P		□ parts □ TempFormat ■ J耐震開ロフレー	-ム(筋かい)用テンプレートV14.csv	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ッテノフレートV14.cs ンプレートV14.cs sv
<u>1</u> STRDESIGNサンブルV14(3階・在来・布基礎).mld 2 勾配梁サンブル.mld			 J耐震開ロフレー 金物工法(HQ金 	-ム(合板)用テンプレートV14.csv ミ物)テンプレートV14.csv	国在来工法(M910)テンプ 国樹種別強度 G 動 .csv	レートV14.csv
			ファイル名(N):	金物工法(プレセッター)テンプレー	-FV14.csv	開((())
			ファイルの種類(工):	CSV ファイル (*.csv;*.txt)	•	キャンセル

2) インポート情報の選択画面で、「インポート情報を使用しない」を選択→次へボタンを押下します。

→木 ⁰ →ト!(表表得馬行	30k	
()ボート情報を使用しない) efaun フスターレコード削除 診物工法データインボート		
ロ社CADデータ連携インボート(金初二法用) 回社CADデータ連携インボート(在来工法用)		
詳細を設定する		

3) 追加インポート情報の設定画面で、分類名「梁端金物情報・梁端金物名称(枝番1・2)」の操作ダウンリストから"追加"を選択し、「柱頭・柱脚金物(金物工法用)」の操作ダウンリストから"置換" を選択→次へボタンを押下します。

?ラーム│ 分類コート	「デー処分」	枝番	分類名	基本	インポート		操作		- 1
AA141130	0	0	仕口断面名称	3					
AA141130	0	1	仕口断面名称	1	1				
AA141140	0	0	梁端金物情報		40	追加			
AA141150	0	0	梁端金物名称		6	追加			
AA141150	0	1	梁端金物名称		2	追加		-	
AA150100	0	1	鉄筋強度	3	3				
AA150200	0	0	アンカーボルト強度	4		追加			
AA150200	0	1	アンカーボルト強度	4	4	邊加: 分類	い誰からす		
AA160100	0	0	コンクリート強度	3		22川:73() 罟趣	NHOCC		
AA160100	0	1	コンクリート強度	15	15	置換:分類:	があるとき置換えない		
AA210100	0	0	偏心率	3		置換:分類)	が無いときは置換えな	() ()	
AB010101	0	0	屋根領域(自身情報)	9		置換:エラー	~帯域指定 はヘニ、 クォニキはゆう	z	
AB020101	0	0	小屋束(自身情報)	38		直探・ 頂花 罟換・ 冬件	首のチョンで直さ探え ことってデータを置き掛	つ タラス	
AB020102	0	0	母屋	18		置換:DLLで	判定したデータを置き	換える	
AB040300	0	0	構造設計条件レコード	13	13	更新:DLLで	更新する		
AD020101	n	Π	1	123		削除			
BA010400	0	1	柱丽·柱脚金物什样	22	22				
BA010410	0	0	柱頭・柱脚金物(金物工法用)	1	9	罟換		•	
BA010500	0	- -	使彩材端部接合部住裸	2	2	Contract of the second se			
BA010510	0	0	壁量計算結果判定基準値	1	1				
1									

追加インポート開始の確認画面で完了ボタンを押下します。 処理中の画面が出て、その後インポートが完了します。

追加インポート開始の確認	
i登加・レポート智能の準備ができました。 通加・レポート各間転する場合は其代で「ボタンをクリックして下さい。 実行を取り上めたい場合には【キャルゆがチジをクリックして下さい。 対象ファイル:C¥Program Files¥STRDESIGN V14¥DATA¥STRDESIGNサンプルV14(3階・在来・布基礎) mld 遠加インポートファイル:C¥Program Files¥STRDESIGN V14¥Modeler¥Template¥金物工法(プレセッター)テンプレートV14.csv インポート情報: (インポート情報を使用しない)	
	机理中
	2-1 (···
	追加インボートの処理中です。 しばらくお待ちください。
〈戻る(日) (一元)	+v>tu

4) 建物概要

物件情報タブの建物概要を選択し、プロパティ画面で工法の「2-一部金物工法」を選択→更新ボタンを 押下します。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 物件情報 基本情報 数地概要 量物概要 是高高さ・面積(・ 性能評価等級 へルフ	
	Image: registration in the second of th

5) 工法を変更したい梁のプロパティで仕口コード(始点)(終点)と金物コード(始点)(終点)を指 定します。

①在来仕口を使用する場合

- a) 仕口コードを「0-勝負けから自動設定」
- b)金物コードを「0-金物なし」

フ ゚ ロハ ゚ ティ		
梁		
項目	内容	^
樹種	0 - 使用木材で指定	
断面寸法 W(mm)	0.0	
断面寸法 H(mm)	0.0	
計算結果の出力指定	0-通常出力	
タイプ	3 - 胴差	
持出梁種別	0-一般梁	
持出端部フラグ	0 - 終点	
接合レベル差(始点)	0.00	
接合レベル差(終点)	0.00	
勝・負フラグ(始点)	1-負け	
勝・負フラグ(終点)	1-負け	
仕口コード(始点)	0 - 勝負けから自動設定	
仕口コード(終点)	0 - 勝負けから自動設定	
金物コード(始点)	U-金物なし	
金物コード(終点)	0 - 金物なし	

②金物工法の金物を使用する場合
a)仕口コードを「99-仕口なし」
b)金物コードを「1-自動設定」

フ ゚ ロパ゚゚ティ		
梁		
項目	内容	^
樹種	0 - 使用木材で指定	
断面寸法 W(mm)	0.0	
断面寸法 H(mm)	0.0	
計算結果の出力指定	0 - 通常出力	
タイプ	3 - 胴差	
持出梁種別	0-一般梁	
持出端部フラグ	0-終点	
接合レベル差(始点)	0.00	
接合レベル差(終点)	0.00	
勝・負フラグ(始点)	1-負け	
勝・負フラグ(終点)	1-負け	
仕口コード(始点)	99 - 仕口なし	
仕口コード(終点)	99 - 仕口なし	
金物コード(始点)	1-目動設定	
金物コード(終点)	1-自動設定	

6) 工法を変更したい柱のプロパティで柱頭柱脚金物(金物工法)(入力)を指定します。

①通常の金物を使用	用する場合	
「99-金物なし」		
フ ゚ ロパティ		×
柱		
	内容	
柱頭金物の許容応力度	0.00	
検定値(圧縮)	0.31	
検定値(めり込み)	0.24	
検定値(柱脚)	0.00	
検定値(柱頭)	0.00	
最大応力検討結果	0 – OK	
めり込み応力検討結果	0 - OK	
柱脚金物の引き抜きに対する検討結果	0 - OK	
柱頭金物の引き抜きに対する検討結果	0 - OK	
樹種(設定値)	1037 - べいつが(甲種構造)	
断面寸法Wl設定値)	120.0	
断面寸法H段定值)	120.0	
柱受け種類コード	0 - なし(内部柱)	
柱受けまでの高さ	0.00	
指定鉛直荷重区分	0 - 指定荷重を考慮しない	
指定鉛直荷重(N)	0.00	
指定積雪荷重(N)	0.00	
勝・負フラグ(下端)(設定値)	1 - 梁勝ち	
勝・負フラグ(上端)(設定値)	- 采勝ち	
柱頭柱脚金物(下端)(金物工法)(入力)	99 - なし(在来金物使用)	
柱頭柱脚金物(上端)(金物工法)(入力)	99 - なし(在来金物快/ ▼	

②金物工法の金物を使用する場合	
「0-自動設定(又はなし)」	

ጋ°ቢΛ*ティ		×
柱		
項目	内容	^
柱頭金物の許容応力度	0.00	
検定値(圧縮)	0.31	
検定値(めり込み)	0.24	
検定値(柱脚)	0.00	
検定値(柱頭)	0.00	
最大応力検討結果	0 - OK	
めり込み応力検討結果	0 – OK	
柱脚金物の引き抜きに対する検討結果	0 - OK	
柱頭金物の引き抜きに対する検討結果	0 – OK	
樹種 殿定値)	1037 - べいつが(甲種構造)	
断面寸法W段定值)	120.0	
断面寸法H段定值)	120.0	
柱受け種類コード	0 - なし(内部柱)	
柱受けまでの高さ	0.00	
指定鉛直荷重区分	0 - 指定荷重を考慮しない	
指定鉛直荷重(N)	0.00	
指定積雪荷重(N)	0.00	
勝・負フラグ(下端)(設定値)	1 - 梁勝ち	
勝・負フラグ(上端)(設定値)	1 - 梁勝ち	
柱頭柱脚金物(下端)(金物工法)(入力)	0 - 自動設定(又はなし)	
柱頭柱脚金物(上端)(金物工法)(入力)	0-自動設定(又はなし ▼	

7)構造計算タブの構造計算実行をダブルクリックして、計算を実行します。



8)構造計算書作成を開き、「5.1 柱頭・柱脚の接合金物の検討(標準計算法)」「5.2 横架材端部接合部 の検定(標準計算法)」で指定した工法に変更されていることを確認します。



【参考】

一部金物工法についての詳細は、

STR_HELP「5.17一部金物工法」をご参照ください。